

福井宇部生コンクリート



建築主体の福井工場のプラント

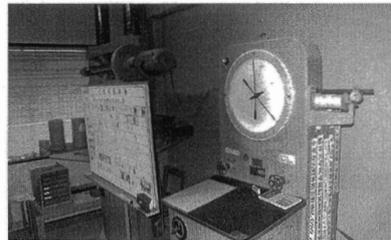
福井宇部生コンクリート(南谷善彦社長)は福井県内に福井、南越、芦原の3工場、別会社で大野工場(ユーコン)を有する福井県最大の有力生コン会社である。また、新技術開発技術提案、有資格者育成(社外向け講習会を含む)、環境保全への取り組み、地域貢献活動など業界・社会の発展に寄与している。

同社の創業は1950年、建設資材販売を業務とする福井鉄鋼販売(株)としてスタート、生コン業は福井宇部生コンクリートに商号変更した63年に開始した。福井工場の操業に続いて翌年南越工場、70年に芦原工場が操業、ユーコン大野工場は94年の操業している。

同社のメイン工場である福井工場は、建築用を主体に年間7〜8万m³を出荷している。高強度コンクリートの単独大臣認定(普通セメントおよび低熱セメント)も使用できる体制をとっている。セメント

ト39〜60N/mm²を取

ユーザー生コン工場訪問



試験室



出荷指令室

の会長を務め、診断士受験セミナーの講習会をはじめ各地の講習会、施工者や発注者から依頼を受け、講師として招かれている。

同社は環境保全(ゼロエミッションの実現、安全衛生管理にも力を入れている)、「安全最優先を念頭に、ユーコンを含む4工場で安全衛生委員会を組織、事故を防止するための

ETISに登録済みだ。

作用を有するコンクリートなどがあり、2件の特許も保有。

また、同社では施工者、発注者に対する技術提案を積極的に行っている。

技術提案の一例を挙げると、ボックスカルパートの温度応力解析と温度ひび割れ対策の抑制、低炭素型・環境配慮型コンクリートとして環境ラベル(メビウスループ)にも適用している。

FBコンを実用化 安全、環境、品質を掲げ

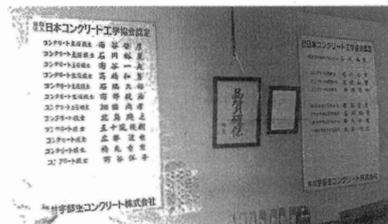
バラ車3台をグループ会社三晃運輸が所有、セメントを供給しているところからサイロは自社所有。生コン車は自家用で4工場併せて約50台が常駐、4工場とも小型車各2台を配備している。骨材は県内の陸砂利、陸砂を使用(南越は砕石使用)する。

有資格者はコンクリート技術士12名、主任技士11名、診断士3名、グループ会社でポンプ圧送を手掛けているため圧送技師11名、また一級土木施工管理技士3名、一級建築施工管理技士1名、技術士(建設部門 鋼構造およびコンクリート)等を置いているのは同社ならではの特色。

「当社の経営理念は品質確保。これはコンクリートの品質確保はもろろんのこと、社員の質、会社の経営品質の確保を目指すものであり、もって地域社会の、豊かな発展に寄与することを当社の使命としている」と語る石川裕夏常務取締役。石川常務は福井県コンクリート診断士会

方策を協議、工場内の危険箇所を挙げ、リスクの低減、従業員の安全意識の高揚を図っている。

新技術開発では、福井県土木部、福井大学と産官学共同研究により「ひび割れ低減型」コンクリートの研究開発に取組み、実用化



試験室に有資格者名

「ボンプ圧送性を考慮したコンクリート配合の技術提案」、「地中梁コンクリートの温度応力解析と温度ひび割れ対策の技術提案」、「環境負荷低減型コンクリートと温室効果ガスの排出量を低減するための技術提案」、「混和剤の変更によるひび割れ対策の技術提案」、「フライアッシュを利用したマスコンクリート対策の技術提案」、「誘発目地を利用したひび割れ制御の技術提案」、「ボンプ圧送性を考慮したコンクリート配合の技術提案」、「地中梁コンクリートの温度応力解析と温度ひび割れ対策の技術提案」、「環境負荷低減型コンクリートと温室効果ガスの排出量を低減するための技術提案」、「混和剤の変更によるひび割れ対策の技術提案」、「フライアッシュを利用したマスコンクリート対策の技術提案」、「誘発目地を利用したひび割れ制御の技術提案」。

「本年度は当社が生コン事業を開始して50年目に当たる。次の50年に向け、この意義深い年を飛躍の年にしたい。ひび割れ低減型コンクリートについて分かりやすい言葉で説明した。」

「本年度は当社が生コン事業を開始して50年目に当たる。次の50年に向け、この意義深い年を飛躍の年にしたい。ひび割れ低減型コンクリートについて分かりやすい言葉で説明した。」

「本年度は当社が生コン事業を開始して50年目に当たる。次の50年に向け、この意義深い年を飛躍の年にしたい。ひび割れ低減型コンクリートについて分かりやすい言葉で説明した。」